

## 恵那南地区中学校再編についての地域説明会議事録

開催日時 令和5年3月15日(水) 午後7時30分～  
開催場所 岩村コミュニティセンター 大ホール  
出席者 岩村地域の方 68名  
その他の地域の方 30名  
説明のため出席した事務局職員等 8名

開 会 (午後7時30分)

教育長 挨拶  
室長 恵那南地区中学校開校に向けての説明

参加者 孫が岩村こども園、岩邑小学校、岩邑中学校と3人通っています。岩村の宮沢と申します。今日は賛成の方とか、反対の方々たくさん見えますと思います。それぞれの意見もありますけれども、相手の意見を尊重するっていう立場で、この会議を進めていってもらうことを切にお願いします。

参加者 安藤と申します。現在88歳です。学校に対しては、いろいろ思っております。大阪の弁護士さん、名古屋の弁護士さん、岐阜の弁護士さん、喋ることによって、この会議の中の色々なことを聞かれるんですけども、NOというあなたたちの責任はないと。これの会議に関しての説明では、全部検討してもらいなダメです。ということを受け取ります。わかりますね、まず、初めに噂としては平成26年からで、今日まで10年間、世の中で4年間で何にもなく、保護者だけに説明をして、こんな大きな問題を住民を入れずに、テーマだとか、保護者に説明しただけ。40数億をかけて、山岡で新築の学校をつくるという1つの噂を聞きました。その説明がどこでどういう風になったか、ということをお聞きください。それがペシャになった。山岡中1校、15億、17億ですよ。そういった中で、どういう風にして、それが変わったかということをお聞きください。教育長さんお願いします。学校の先生であって、教育長だから、わからんかもしれんけども、ここに座ってわからんちゅうことはないわけですからね。なぜ40億から、15億から17億になって、1本になったかとその説明をしてください。

教育長 ありがとうございます。先ほども説明しましたけれども、新築から既存の校舎を使うということについてでよろしいですか。

参加者 説明は、どこで決まったのか、噂なのか、その辺から調べてもらって、平成28年には、委員会の答申で議決となっておりますけれども、その前に噂が出ました。山岡に40億もかけて作るということは、賛否両論。さすがは恵那市、40億もかけて、学校のためにという話。そして、15億にどんとして6割減りました。その中で私が言いたいのは、額が大きすぎるわけね、学校をやろうと思うと。今の国内の情景を見て、本当に経済もむちゃくちゃ。そういう中で令和8年に開校します。という教育長さんならね、それまでのいきさきで、胸のうちに何か起きたらどうしようかしら、という気持ちがあるかないかと。私たちは何にもそんなに金使わんでも、立派に2校で学校生活できるわけ。私今言おうと思ったけど、小泉さんとか、小淵さん、ここには総理大臣が来とるんですよ。実践女学校がある、そういう歴史ある町から、学校をなくせるといって、そのあなたの気持ちを皆さんの前で言ってください。少子化とかそういうもんじゃなくて。さっき少子化の話が出ましたけども、1月2月に恵南5ヶ町村で

11名生まれております。もう、岩村の町入っても、子供の泣き声も何も聞こえませんが、そんな状態ですよ。ですから、確かに少子化って言われますけども。私がね、専門に聞きました。皆さん、賛成って言われる方、条件が良ければ賛成です。条件が悪いから反対です。条件のいい人が、条件の悪い方の価値観だったら、100パーセント反対だそうですね。

教育長

まず、先ほども説明させていただきましたけれども、この学校の小規模等の教育について。実際は、平成20年から検討委員会を立ち上げて検討しております。26年27年とあり方検討委員会、再編委員会等で、それぞれの地域の代表者等も含めて、代表の方たちに、議論等していただいた中で、私たちは答申というものを受け取っています。その答申の中で、18項目、もっとこういうことも考えたいよということをいただいたので、それを考えながら進めてきたわけです。その途中で、少し時間がかかっているということにつきましては、私たちの進め方もよくなかったなということを反省しております。その後ですけれども、18項目の検証とか検討したこと。それから、平成31年には、こども園の保護者や小中学校の保護者等全体で1170名の方に公聴会を開いたり、それから令和4年にも意見交換会を開いたり、そういう経緯もございましたので、恵那南地区の中学校の統合について、再度今までの流れで本当がいいのかどうかということも含めて検討していただくために、教育環境等検討委員会を設置して、検討していただきました。その結果が提言として出されていますので、その提言を受け止めて、教育委員会で検討した結果、この提言の通り進めていこうということで、進めておるところでございます。

参加者

私は今5歳と3歳の孫がこども園に通っております。この出生数の推移というところを見ますと、令和元年で60人、令和3年で46人と出ております。今はある程度人数が多いかもしれませんが、だんだん少なくなっていってしまっていて、令和4年度だと、31人って書いてあります。今、山岡の中学校を改築して、10億円を使って統合しても、また人数が少なくなってしまっていて、それこそ恵那と合併しなきゃならないという状況にもなると思うんです。これから将来先なのに、今なんで山岡中学校を改築して、すごいお金を使って、そしてマイクロバスに乗る。生徒の通学時間もかなりかかって、不安だらけです。私は岩村に住んでおりますけれど、とても便利ないいところです。店もたくさんあり、銀行もあり、それから会社もたくさんあります。山岡はほんとに不便です。なんで、そんな不便なところに1校に持っていかなきゃならないのかと。やっぱり生徒にとっても、中学校の終わった後に、塾に通わせたいとか、買い物をして帰りたいとか。何もかも全てが毎日マイクロバスで通うっていうこともできないと思うんですね。いろんな方の事情があるので、そうしたら便利なところに作っていただく方がやっぱり生徒のためにもあるし、保護者のためにもなるし、学校の関係者のためにもなると思うんですね。なんで山岡なのかわかりません。

教育長

ありがとうございます。まず、なぜ今の1校統合かということでございます。確かに、これからお子さんの数も減って行って1学年が2学級になったりということもあると思います。これは3年後を想定しておりますけれども、子供たちがある程度の人数の規模で学ぶことができる、そういう環境を整えることができるならば、そういう環境を整えたいということが、まず1番でございます。その中でなぜ山岡なのかということにつきましては、5校を1校に統合するときに、まず1番遠くなるであろう上矢作と串原からある程度同じような時間で行ける地域を探した時に、山岡ということが出てきました。そこで山岡であと岩村や明智の人がバスに乗ってきていただけるのがある意味では、理にかなっているのではないかとということで、山岡という場所を選んだということ

で、答申をいただいております。

参加者 出生数がすごく落ちてるっていうのに、なんで、ブカブカの学校を作るんだということをお答えにならなかったんですけども。これ、単純に出生数のシミュレーションを見ていきますと、17年は134人で、次の12年後ですか。何人生まれてくるかっっちゃうのもあるんですけども、100人切りそうなんですよね。337人の学校を作っという、皆さんがやられたシミュレーションで見ても、令和18年には100人切っちゃういそうだから、こうなりそうなんですよね。これ、ほぼこのシミュレーションを通じてやれたら、明らかな状態で、そういうブカブカの学校に大きいお金をかけるよりも、今の世の中も変わってますから、教育環境を整えるのであれば、今1人1台タブレットを持ってるわけですから、そういうバーチャルの環境を使われたら、物理的に1校に集まらなくても、それぞれそのタブレットで授業できるわけです。今のままの校舎でやっても、授業を一体化されるというか、学校の運営自体をバーチャルに1校に統合されたら、おっしゃるような、みんなの環境とか、人としての付き合い、今zoomでいくらでもできるわけですから、子供たちもですね、もう時代が変わってきてるわけですから。10億もお金をかけて、ブカブカの学校を何で作るんですか。っていうことに対するご回答いただきたいですね。

教育長 はい、ありがとうございます。いずれは小さくなっていくということですけども、それを待ってお金をかけないのかということですが、私たちは今1校に統合するならば、1学年3学級とか4学級という、環境を整えることができるということですが、私たちは、そういう環境を整えたいということですが、待っていて、小さくなるから無駄だとか、そういうことではないと思っています。それから、今タブレット等を皆さん持っていて、そういう授業もできるわけですけども、学校というのは、タブレットで学習すればそれでいいんだということだけではなくて、実際に子供たちが集まって、人間関係を作ったりとか、様々な行事に仲間とともに、または地域の人たちと共に活動する中で、様々なことを学びます。そういう機会をできるだけ多く設けてあげたいということを考えていますので、1校統合を進めていきたいと考えております。

参加者 今、ブカブカの学校を建てるという回答になってないですが。

参加者 ですから、今の子供たちに少しでも良い環境を作るためならば、多少これが少なくなったとしてもですよ。

参加者 このシミュレーションだと、18年には100人切りますよね。

参加者 切ったとしてもです。

参加者 そういう400人の学校にして、みんなで集まって、やるのが大事だと。

参加者 はい、そうです。

参加者 そうすると、337人の学校作っという、それが18年には100人切っちゃうという状態でもブカブカの学校を作る。

教育長 はいそうです。そのために今の子供たちに何もしないというわけでは、私たちはそれは違うと思ってます。

参加者 私は働くお母さんという意味で少しお話させてもらおうかなと思います。私、今小学校の3年生と今の年長と2歳の3人子供がいて、恵那市内で正職で働いています。8時半から5時半までフルで働いています。子供が遅刻することはないと思うんですけど、乗り遅れたりとか、やむを得ない事情でバスに乗れないってこともあると思います。正直、1人持病がある子供もいるので、実際そのバスに長いことちゃんと乗れるのか、それも不安で。送り迎えが必要ってなると、今みたいには働けないなってすごく思います。実際今これを見た限り、岩村って、16年でも80人いるって書いてあって、1番多いんですよ。私が

出身は上矢作町で、岩村に今住んでる理由としては、その統合の話があって、送り迎えとか絶対いるなって時にすごく不便だって思って、上矢作から出てきた経緯があります。さっきは地域のスタイルとかまた別問題って言ってましたけど、私みたいに働く人間としては、子供の教育って、自分の働くペースにも影響するし、すごく困っちゃうなっていうのがあって。統合自体は人数の減り具合を見ると致し方ないっていうのが正直なところなんです。でも、まだ人数も多いし、先ほどいろんな方が言った校舎の問題も含め、やっぱり急いで3年後っていうのは嫌だなって、正直なところなんです。あと、人から聞いた話もあるんですけど、瑞浪の方の日吉地区のお母さんとかで、遅刻した場合に、バスはもう出ないから、おじいちゃん、おばあちゃんが送ってます。疲弊してます。っていう話を聞いて、さっき言ったように、おじいちゃん、おばあちゃんは上矢作ですし、年も上回ってくるんで、運転任せられなくなってくとも思うんです。だから、やっぱり現実的じゃないかなっていうのをすごく感じます。今の例も聞いた上で、その本当に3年後でいいのかなっていうのを、考えてもらえる人がいっぱいいるといいなと思っております。

教育長

ありがとうございます。確かに、それぞれのご家庭に様々な事情があって、登下校のことすごく心配される方もお見えです。私もスクールバスを使っている学校にも勤務させていただきました。スクールバスで言いますと、どの方がどこで乗るかということ、運転手さんは把握しております、今日誰々さんいないなということがわかれば、少し待ったりすることもできますし、もちろん最初から、今日は乗らないよという連絡があれば、それも確認できます。そういう形を取って、通学については考えていきたいと思っております。他の地域でバスにすごく酔うんだと、それは大丈夫なのかっていうお話もありました。それぞれお子さんの事情があるわけですので、そういうことにつきましては、私たちも考えるべきところはあるなということを思っております。ただ、今すぐにこうします、とはなかなか言えないわけですが、そういうようなお子さんの事情も、きちっと把握しながら、進めていきたいと思っております。これにつきましては、教育委員会だけが進めるわけではありません。これから市長さんも議会の最初の日に統合を進めていこうということをおっしゃいました。そして、今の議会に予算を計上しておりますけれども、それを議会でもご審議いただいて、その中で市としてもこのことに取り組んでいくということで、例えば、今の交通網のことにつきましても、市はいろんなことを考えております。より、皆さんの生活が便利になるようになっていく、そんな中にこの通学のことも含めて、考えていただけるような、そういうこともあるかもしれません。いろいろなことを考えて、できる限り皆さんの不安をなくす中で、また学校が始まった後も、そういう問題について、きちっと取り組んでいきたいということを思っております。よろしく願いいたします。

参加者

私は岩村町の鈴木と申します。孫が4人で中学3年、小学校6年、小学校4年保育園の年長と楽しく学校へ保育へ等々行っておりますけど、やっぱり子供が毎日学校へ行くと、友達と遊んで、元気で行く様子を見ると、本当に一生懸命生きているなという風を感じております。そして、先ほどお金の問題が少し出てましたね。30億を使うのはなんでだ、17億はどうした、と金はどうだと思ってしまうんですけど、私は子供にとってのお金を使う道は、もっともっと使ってもらえればありがたいなと思っております。30億、40億、あるいは50億とていい環境作りだと、ありがたいと思っております。そして、先ほど出生数の問題もありましたけど、これは出生率の少子化の問題で、これからはもっと世の中で、もう日本全国どこでもしょうがないという各地区で問題になってると思っております。この問題をクリアするためには、皆さん一丸となって、この学校作りを

一生懸命考えて、そして、いろんな意見が10人見えれば10通りあるかと思えます。その中でいい意見を継ぐためには、皆さんの力で一生懸命になっていくことが大切です。今、恵那北中学校でも91人でも頑張ってみようと思います。100人以下で。ということは、学校が大事で、そして道徳も大事なんです。そして、子供が元気よく学校へ保育園行くことが大人作りの基本ですから。私はこれからいい恵南の中学校作りに1校にまとめていただいていることが大事かなと思います。

教育長

ありがとうございました。本当に力強いご意見をいただきましたけれども、実際にお金のことは話題になっております。私たちもお金は大切だと思っておりますし、どれだけかけてもいいというわけではありません。けれども、必要なお金はかけたいですし、様々な補助金、国や県の補助金等含めて利用できるものはできる限り利用して、恵那市の持ち出しのお金を少なくしていきたいということを考えております。市長さんとも話し合う中では、ぜひ子供たちが来たいような学校、そういう学校を作ろうではないか。そのために知恵を出そうよということも言っていたいておりますので、そんな意味で全力で取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願ひします。

参加者

岩村の水野といいます。私は古くから、文教の町として、岩村やってきました。その岩村から、中学がなくなるということは、寂しいことで、ぜひ残してほしいという立場で、質問と意見を述べたいと思います。下田歌子さんもおね、今泣いてると思いますよ、なくなることについては。そういった点で質問させていただきますが、まず疑問なのは、どうして1番多い生徒がいるこの中学校より小さな山岡へ統合に向けてると先ほど聞きましたけども、これがどうしても疑問ではないです。先ほど言いましたように、町の真ん中に今、中学があるんです。ですので、徒歩でほとんどの人が通えるんです。そして、あの周りは今、新築の住宅ができてます。なぜか。小学校や中学校が近くにあるからです。岩村というのは、国道257号線、南部に走っています。交通の要所なんです。そういう点で言いますと、これを投げ捨てて、通学することになるわけです。多数が国道363号線という、これは非常に狭くてですね。あの曲線が多くて、非常に危険な道路だと思っております。あえて言わせていただくと、岩村にとっていいことは1つもない。そういう風に私は思ってます。もう1つ山岡中学校というのは、恵南全体の地図を見ても、北西の端にあるんです。真ん中じゃないですね、もちろん真ん中は山です。いずれにしても、本来市役所もそうですけども、公共のものってのができるだけ便のいい中心に置いてるんです。基本の基本なんですよね。これが質問です。意見です。通勤時間、皆さんのここに幹部の方が見えてますが、1時間以上通勤されてる方、手上げてください。1人ですね、大変でしょ。私もね、実は名古屋まで通勤しとったんです。JRの恵那から大曾根に行きます、1時間。1時間でも長いです。しかも、秋から冬にかけては出る時は真っ暗、帰る時も真っ暗です。仕事で中にいると、日に当たることもないです。そういう状況で、子供にとっては非常に苦痛な時間なんです。岩村の場合は30分から20分って言われましたけど、歩いとったのが全校バス通学になる、体力面も心配ですね。成長期です。話によりますと、上矢作では実際に計ってきたら75分だって試算があります。多くて2時間半通うんです。想像してみてください。義務教育で、こんな通学時間の生徒を作っているんですか。聞きます、ダメでしょう。生徒は学校を選べません。はっきり言います。生徒間でこれだけ差をつけてはいけないと思っております。

教育長

まずなぜ山岡かということですが、先ほどもお話をさせていただきましたけれども、恵那南地区のどの子もよりよい教育を受けることができるよう

にするために、1校に統合したいということが、私たちの願いでございます。その中で、それを実現するために、通学時間が長くなる方もいるかもしれませんが、通学時間が1時間以内に登校できるところは、どこかと考えた時に、委員会で検討していただいた結果、山岡だということで答申を受けました。数が多いからとか、そういうことで選ぶわけではございません。それから、上矢作の方で、計ったら70分以上かかったということをお伺いしました。実際に私たちも走らせてきました。上矢作で言いますと、いくつかのポイントを通ったら、あとは、山岡の方に直行する。そういうコースを取りますと、40数分。または、少し時間かかるところでも50分というシミュレーションを私たちはもっております。そのバスのシミュレーションにつきましても、もう1度きちんと予算を取って、検証していきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

参加者 岩村に住んでます。今、お父さんが言われた、そういう遠いところに通うのはすごい辛い、それは大人の意見で、本日たまたま娘たちも興味があつて一緒にきたんですけど、今高校生なんですけど40何分かかって遠いところに通ってるんです。「どう？40何分かかってマイクロバスに乗って中学校に通うって、どんな気分？」っていうの聞いたら、「絶対やだ」って言った。「でも300何人になるのは楽しそう。ワクワクする」っていうね。体験したことはないの、そうやって言われたんですけど。これを今高校生ですけど、遠いところに通ったと同じぐらい今すごい嫌なので、「これが毎日3年間続くんだよね」っていうので、「そういうことやね」っていうことで、ちょっと取り上げさせてもらいましたが、かなり辛いということです。皆さん意見を色々言われてるんですけど、質問の1つでとか、意見を1個でとか、それどうかなって思います。すごく大事なことなのに、1つ1つきちんと丁寧に答えなきゃいけないと思うんですよ、そちら側は。あと、こども園の時にも私ちょっと関わったんですけど、こども園の時の教育長さんとまた今回違うんですよ。変わられるので、責任がないので、今回こんな大事なことを決めて、また異動されると思うんですよ。もう少し皆さんの意見をちゃんと聞いて、8年に目指します。目指しますって、なんかさっきから回答は全然納得してなくて。私も「あー、そういうことがあるんだな」ってすごい勉強になったんですけど、質問に対して全然納得いかない回答を何回もされてるので、もう少し納得いく回答をお願いします。

教育長 ありがとうございます。1人1問っていうことにつきましては、できるだけ、多くの方に、ご発言をいただきたいということでございますので、そういうことをさせていただいております。それから、バスに乗っていくの嫌だな、そういうお子さんも見えるでしょう。バスの中の過ごし方も含めて、時間を有効に使えるような、そういうことも考えながら、通学について、工夫できないかということも、これから考えていきたいと思っております。

参加者 今そうやって言われましたよね。そのバスの中で楽しく過ごせるように、が解決じゃなくて、楽しく過ごせとかまうまくいけるように、で解決するのではなく、まず子供たちがバスに40何分乗っていけるのかというアンケートを取ったらどうですか。

教育長 まず、今実際に通って見える方はイメージできるのかもしれませんが、40分、50分はどうかっていう風に子供たちに聞いた時に、その回答を持って、じゃあ、やっぱり統合をやめますとか、そういうことではないです。私たちはこれから3年間、令和8年まで時間がある中で、精一杯子供たちにも話をしながら、なんとか、統合の中学校に通えるような、そんな、子供たちになってくれるように努力していきたいと思っております。それから、先ほど無責任だ

- ということを言われましたけれども、私たちは精一杯責任を持って、やらせていただきますので、よろしくお願いします。
- 参加者 岩村の鈴木です。本当に皆さん心配されて、いろんなことを意見なり考えなり言われておりますけれども、ここにきちっと回答を書いて出してあります。じゃあ、どういう風にしたらいいかを考えればいいじゃなくて、私も教員やっただんで、子供たちのことはわかりますけど、親の心配もあるけど、子供のことももっと心配しなければいけない。ということは、これからの子供はすごい世の中を生きていく、たくましく生きていかなくってはならんと思ってます。だから、そういう子供たちにどう教育をするかってことだと思うんですね。現に今小学校、中学校に通っている子をどうするか、それから、これから小中学校になっていく子をどうするか、そういうことを考えると、ここに出ている案で、これをいかに進めていくかということしか私は今考えられないんじゃないかなと思います。子供は、結構環境に慣れるんで、だんだんとそこがたくましく生きる力に繋がってでいくんじゃないかと思えます。今の学校は私も中学校とか行くんですけど、専門の先生が本当いない。可哀そうです、子供が。これからさっき言ったように、高度化した社会で生きていくには、やっぱり専門の先生が中学校の頃にしっかり教えていくことが、将来に繋がっていくと思うんですね。だから、このお話をできるだけ進めて、いろんな意見が出てきたから、それを吸い上げて、よりいいものを考えていくと。だから、そこんところが1番大事であって、今のままでいいってことは絶対ないです。可哀そうです、子供が。時間がなかったんで、これだけ意見を述べさせていただきます。ありがとうございました。
- 教育長 ありがとうございます。このことにつきましては、本当に大きな問題であると私たちも認識しております。実際にご心配なこともたくさんあることもお伺いしております。その中で、例えば、子供たちが大きな環境の中に突然入って、知らない子と生活することに、すごく不安があるよっていうことも教えていただきました。そういうことにつきましても、来年度から小学校、中学校含めて子供たちも統合に向けて前向きになったり、思いを持って、最終的に統合の学校に通っていただけるような、そんな取り組みもこれから進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いします。
- 参加者 手短かに言います。岩村の田口と言います。一生懸命考え出した話やもんで、僕は本当行政の皆さん大変やと思うんで、頑張っている学校。さっき日本一つで言ったけど、日本一通学時間が長い学校とかそんな日本一やなしに、本当に1時間かけても子供たあが行きたくなる学校。まあ、1つの例だけ映画で世界の果ての通学路なんちゅう映画を見たことあるけど、どっかの国でアフリカで何時間かけても歩いてってても、もう毎日勉強したいと思う。それぐらいの学校ね、中身をちゃんといい学校にしてほしいと思ってますよ。令和16年と言うと、8学級ですよ。ところが、全部の今統合してない学校の令和16年と言うと、17学級あるんですよ。そうすると、教職員数が半分になっちゃうんですよ。確かにそうやって考えると、教職員定数っていうのはなかなか市独自でできんことかもしれんし、予算配置できんかもしれんけど、先生の数、専門の先生は多いようになるかもしれんけど、恵南に今おった先生とか、半分以下やに。みんなそれでもいいならいいけど、僕はもしできるんやったら、やっぱり統合して先生の数をちゃんと確保して、さらに充実した教育できるように、もう数字的にはっきりするね、先生の数が増えるってことはね、だったら、もうちょっとなんかフレキシブルにできるよう、そういうことも考えてもらおうといいなと思う。最初教育長さんだけね、舵を切ってね、統合するんでって。なんか市長さんはきっと最初もう住民のみんながもう統合してくれにゃ困

- るって頼むにって言ってから考えるって言ったけど、そういう風にきつとみんな言ったんやね。だもんで、そういう風に解釈したと判断するけど、どうも今の雰囲気見るとちょっとどうかなって思わんでもないということだけ。ぜひ、統合するんやったら、それでそのことについては、僕はいつそのこと恵那で1個の中学校を阿木川ダムとこでがんと作った方がいいぐらいだと思ってるけど、でも、ほんとにあのいい学校を作ってください。そこはお願いしますありがとうございました。先ほど言われましたように、やっぱりある程度の教員がいないと、手厚い授業っていうのも、なかなかできないということは、理解しております。この表で言いますと、11学級で17人ということなんですけれども、今の状況で言いますと、特別支援学級っていうのもあって、それが3クラスだと3人、これで20人になります。それから、統合した時には特別に教員を配置できるということで、1人、それから主幹教諭というのがありますので、それで1人配置できます。それから規模がある程度できてくると1つのクラスまたは2つのクラスを3つにしたりとかっていうことで、より人数が少ない中できめ細かな授業を行うというようなための教員を要望することもできます。ですので、できる限り、多くの教員を配置できるように努力していきたいということは考えております。また様々な課題等についても、これから一生懸命考えていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。
- 教育長 岩村町の伊藤と言います。色々ありますけれども、いきなり新聞報道で山岡町1校っていう案を聞いて、大変驚き、何で今すぐ1校にしなかんのかっていう疑問があって、今日ここに来ました。時間がないので、1つだけ質問させてください。瑞浪市の統合のことを参考にして、案を決められたっていう風に聞いておりますが、校区が広いっていう通学の負担が大きいっていうことは、あの共通点だと思います。面積は瑞浪の4倍ありますよね。そういうことからして、どのような視点でどういうところを参考にされて、中学校1校になったのかわかるように教えてください。
- 参加者 ありがとうございます。まず中学校1校ということにつきましては、先ほどから話をしております。各委員会で、あり方検討委員会とか、南地区中学校再編委員会等で検討していただいておりますので、この時には瑞浪のことを参考にしたとか、そういうことではなくて、今これから進めていく、例えば、準備委員会とか専門部会とか、そういうところで、どんな風にしたのかな、っていうようなことも含めての参考にといいことでございます。また通学の方法につきましても、瑞浪はどのようにしているのかなっていうことを調査をして、参考にさせていただいております。参考ってのは、それをそのまま取り入れるということではなくて、そういう風にやられたんだなって、その経緯とかそういうことも含めて、いろいろなものを参考にさせていただいております。それから、これからまた進めていくにあたっては、実は私たちも色々調べてみますと飛騨地区にはこの恵那南地区よりも広い範囲のところ中学校統合して、平成16年に開校したところもありますので、そういうなところも含めて、これからも検証とか情報を集めながら、活かせるものを活かしていきたいと思っております。
- 教育長 お願いします。私、遠山と言います。発言の機会をいただいて、ありがとうございます。個人的なことを最初に言いますが、岩邑中学校はぜひ残してほしいです。こんなに地域的にも恵まれた場所に、しかも、さっきから何度も言われていますように、今後一番たくさん子供が生まれていて、中学校に子供がいるところがなんで、その学校捨てて全員が100パーセントの子がバスに乗っていかなきゃいけないか、もったいない話だと思います。佐藤一斎さん、どうなっちゃうのかな。もったいなすぎます。さて、本日教育長さんに3つについて

お聞きしたいと思います。若い人たちが、特に保護者の多くの人たちが統合反対という風に言い切っている人は少ないと思います。よく声を聞いてください。1校はないよって声もあるじゃないですか。まだ2校、3校っていう案もあるんじゃないの。それも考えてほしいっていう風に言ってると思います。昨年の教育等検討会議のことですけど、たった3回の会議で、しかも実質2回の会議で、今日に至ることが全部決められたんですが、その決め方も大変問題かと思えます。ここで1校であるっていうことの是非は何も話されず、いきなりバスとか新築ってことが言われました。その明知鉄道はやめてバス、新築はやめて増築。1校はどうするか議論はなぜなかったのかお聞きしたいと思います。参考にされたという瑞浪市については、今声が上がりました。この人たちはこの町では、市民の人たちに教育委員会が寄り添ってきたんだって風に思います。今の教育長さんの返答をぜひ直していただきたいと思えます。それから、もう1つ最後にしたいと思えますけれども、今回多くの保護者の人たちがもっと声を聞いてくれという風にあちこちで言ってるんじゃないですかね。それは、先ほど1番最初に私のお隣の方が、1番大事なことは、リスペクトだと。互いの意見を尊重し合おうっていう風に言われた。まさにこのことではないですか。それで、なぜ2校案もあるよ。3校案もあるよっていう風に、若い人たちが声あげてるのか、しっかり話し合いをしてほしいと思えます。市長は、しこりを残さないという風に言ってみえます。しこりを残さない統合とは、どうすればいいか、このことを考えることではないでしょうか。

教育長

ありがとうございました。まず、2校とか3校について、全然話し合っていないと言われましたけれども、先ほどからも説明しておりますけれども、平成20年から、この南地区の学校の規模についてどうあるといいのかってことは、ずっと話をしてきました。それぞれの委員会で、提言や答申等を出していただきました。その重みというのは、私たちはあると感じております。それぞれの地域の代表、様々な団体の代表等も含めて出てきていただいている中で、本当に時間をかけて丁寧に話をされたと思っております。その中で、地域から学校がなくなることについて、どの方も、それはいいことやなって思っただけというわけではないと、私も感じております。でも、子供たちのことを考えた時に、1校、それはやむを得ない。その後は場所のことなど話をされ、委員会を積み上げてきている中で、恵那市教育環境等検討委員会でございます。時間をかけてなく、急いだのではないかっていうことですが、検討していただくことは、ある程度明確になっておりましたので、その部分を重点的に話し合っていて、提言をいただいたと感じております。よろしく願いいたします。

室長

それでは、お時間になりましたので、この会を閉じさせていただきたいと思えます。ありがとうございました。

開 会（午後9時）